

BoCo 株式会社

「弊社の製品はイヤホンではなく、正式には bone phone®。耳からではなく、骨から音を聴いていますからね。既存のイヤホンと根本的に音を聴く手段が違います」

**WHOが発した世界的難聴リスクを機に骨伝導技術に着目
BOCOを創業。世界初の骨伝導デバイスの開発と量産に成功**

骨伝導イヤホンをご存知だろうか。通常のイヤホンは鼓膜を通して音を聴くのに対し、骨伝導は骨を通して音を聴く。鼓膜から音を聴くことが長年当たり前だった者が骨伝導を体験。すると、音楽を聴きながら会話ができ、音楽を聴きながら環境音が感じられる。全く違和感なく同時に聞き分けられる初めての感覚。素直に出てきた感情は、感動、新鮮、快適の3つ。これらの感情が一気に押し寄せ、思わず笑みがこぼれる。

そんな、ワクワクするような未知の体験をさせてくれたのは、世界中の骨伝導イヤホンメーカーの中でも群を抜くクオリティの製品を製造するBOCO株式会社の代表取締役社長、謝端明氏だ。

「現在は弊社独自の骨伝導技術を活かした音楽用、会話用イヤホンを主に製造・販売していますが、もっと色んな分野に応用できるものであることは間違いありません。骨伝導を通して、世界中全ての人と音の関係を良くしていくという目標に向かってこれからも挑戦し続けていきます」

こう力強く話す謝代表に、BOCO設立の経緯や骨伝導技術にかける想い、今後の展開など、多忙な合間を縫って様々なお話を伺った。

世界初の骨伝導技術を駆使して
世界に幸せを届ける事業を展開

bone phone® (骨伝導イヤホン) で全ての人と音の関係を良好に

BoCo 株式会社

代表取締役社長 謝 端明

骨伝導を通して、
世界中全ての人と
音の関係を良くして
いくという目標に
向かってこれからも
挑戦し続けて
いきます

Excellent Company
Only One & Number One Enterprise



BoCo 株式会社

boco 製品ラインナップ Your Happiness is Our Business.



特許取得のコア技術が詰め込まれた製品を次々とリリース

各メーカーから骨伝導イヤホンが販売されている国内市場において、その性能が高い評価を受けてシェアを伸ばしているBoCoの骨伝導イヤホン。こうした現状に対して、「まだまだスタート地点に立ったばかり」と謝代表はさらりと云ってのける。BoCoの創業は2015年（正式な実働開始は2016年）。元々、およそ20年もの間、国内製造メーカーの経営コンサルタントを手掛けていた謝代表は、BoCo創業の経緯を次のように説明する。「製造業には愛着があり、私もいつかは自分でメーカー企業を立ち上げたいという想いがありました。その上で、骨伝導に着目した1つのきっかけは2015年にWHOが発表したファクトシート。調査の結果、先進国と言われる国々の12歳〜35歳の若年層、およそ11億人がイヤホンの使い過ぎによる難聴リスクがあることがわかったのです。背景にはスマホの普及

が大きな要因にあるようでした」

この世界的課題の解決をはかるべく辿り着いたのが骨伝導だった。「骨伝導技術自体は以前からありましたが、性能的には長年飛躍的な進歩がありませんでした。世の中にない高性能な骨伝導イヤホンを作って普及していけば、健聴者の難聴リスク回避、言い換えれば若者たちの未来の聴覚を

守れる役目を担えると考えました」

こうして事業活動を開始した謝代表が、最初に着手したのが構造的な発明と量産化だった。「高性能製品の発明と同時に必要だったのが量産です。例えば良いものを作っても量産できなければ事業として成り立ちませんから」

BoCoは全くの0から世界初の骨伝導デバイスの開発に成功し、これを量産することのできる、これまた世界で1つしかないオリジナルの完全自動機の開発・稼働を実現させた。「イヤホンに埋め込める程の極小サイズと最大の骨伝導能力を両立させたデバイスは世界初の発明で、他の骨伝導製品との差別化を図るため、純骨伝導®と名付けさせて頂きました」

その後、特許取得のコア技術が詰め込まれた製品がアップデートを繰り返しながら次々と世に送り出され、事業開始から現在まで、順調に販売実績を積み重ねてきた。

**鼓膜ではなく骨から音を聴くBoCoオリジナルの高性能骨伝導イヤホン
独自製品の研究・開発を支える精鋭スタッフが最大の強み**

今現在（2023年2月現在）、BoCoの扱う製品は大きく分けて2つ。1つは音楽用の骨伝導イヤホンで、もう1つは会話用の骨伝導イヤホン。

音楽用の最新モデルは、2022年にリリースされた完全ワイヤレス骨伝導イヤホン「PEACE SS-1」という製品だ。「骨伝導イヤホンをメガネのようにファッションングッズとして身につけて頂

BoCo 株式会社

完全ワイヤレス骨伝導イヤホンの
最新モデル「PEACE SS-1」

ければと、コンパクトでファッションナブルなデザインにこだわりました。機能的には耐久性やフィット感、音質全てのクオリティを突き詰めています。耳を塞がず、骨を通して快適に良質な音を聴く、これ以上ない「ながら聴き」生活を実現することのできる製品となっています」

通勤・通学、オフィスワーク・リモートワーク、スポーツ・アウトドア、家事・育児と、あらゆるシーンにおいて、外部からの音と骨伝導イヤホンからの音を極めて自然に両立させることができる。「今問題となっている移動中の歩きスマホによる事故リスクもなくなるなど、安心・安全に日々の生活を送りながら、音を楽しむことができます」

そしてもう一つの会話用骨伝導イヤホンは、「HA-55CL-11002」タイプが現行モデルで、優れた集音機能により、人の声や環境音など外部の音を鼓膜ではなく骨伝導でクリアに聴くことのできる製品となっています。「長時間つけていてもストレスを感じず、音のする方向も明瞭にわかる設計になっています。鼓膜に依存していませんので、突発音や衝撃音も気になることはありません」

さらにこうした主力製品の他、2018年には「docodemospEAKER®」という名の骨伝導技術を活かしたスピーカーもリリース。BoCoの製品バリエーションは年々広がりを見せている。

創業以来、他の追随を許さないオンリーワンの技術・製品を生み出し続けるBoCoだが、これ

を支えているのは同社の精鋭スタッフ達だ。「当社独自のコアデバイスの研究・開発は、富士通、ソニー、パナソニックといった大手出身のベテランエンジニアスタッフや骨伝導に魅入られた30〜40代のやる気に満ちたスタッフ達の日々の試行錯誤と努力に支えられています。この優れた人材が弊社最大の強みといっても過言ではありません」

第2の補聴器としても機能するBoCoの製品。難聴者の救世主に 45年間音を聴いたことのないろうあ者に音を届けることに成功

謝代表は、BoCoの事業を通して、「若者の難聴リスクの回避」を大きなテーマとして掲げているが、同時にもう一つ掲げるテーマがある。それが、「難聴者への第2の聴覚の提供」だ。「当社の製品は既存補聴器に代わる第2の補聴器としての機能を果たせるクオリティがあります」と謝代表は語る。

現在日本には、およそ1500万人の難聴者がいるといわれている。これに対して補聴器の所有者は200万人に満たない。さらに補聴器を実際に使用している人はさらに半分以下というデータもあり、難聴人口に対して補聴器使用人口がおよそ5パーセント程度と圧倒的に少ないのが現状だ。「見た目や機能、値段的な問題から、補聴器がユーザーから受け入れられず、この状態が何十年と続いているのです。当社の製品は、見た目もお洒落で、鼓膜に負担をかけずに骨伝導で音を聴くことができ、既存補聴器に比べ金額もかなり安価です。皆さんがネックと感じている部分を全てカバー

BoCo 株式会社

しています。当社は鼓膜ではなく、骨という新たなチャネルを用いて、難聴者の方々に音を届けた
いと考えています」

実際BOCOには、難聴の人々からの喜びの声がいくつも届いている。謝代表に印象的なケース
を挙げてもらった。「難聴で十数年間補聴器を使っていて、だんだん補聴器を使っても聞こえ
なくなっていた92歳の方に当社の製品をお使い頂いたところ、見事に聞こえるようになり、大変喜
ばれ、感謝状まで頂きました」

「17歳の女性の方は、先天性の聴覚障害で生まれつき左耳が全く聞こえないような状態でした。こ
の方にもご縁があって当社の製品をお使い頂くと、左耳で音が聴けたのです。『感動し過ぎて母と
二人で泣いた』といったような喜びのメールを頂きました」

「最後はかなり前になりますが、一度だけ当時45歳位のろうあの方（音声言語を獲得する前に失聴した
人）に当社の骨伝導イヤホンを使って頂いたことがあります。結論からいうとこの方にも音が届いた
のです。45年間音を聴いたことがなく、初めて聴いた音にびっくりして椅子から飛び上がるほどでした」

革命的製品の開発を続け、モノづくり大国日本復活の旗頭に

「日本の製造業を活性化させ、ジャパンブランドを世界に発信していきたい」

将来的な難聴予防だけではなく、前述の事例のような、既に難聴で困っている方へのソリューション
的役割も果たすBOCOの製品。「人類の長い歴史の中で、音を聴く手段はずっと鼓膜でした。

その中で、当社の粋を集めた製品が、骨を鼓膜に代わる第2の聴覚機能へと昇華させることがで
きたのです。当社の製品の誕生は、同時に第2の聴覚の誕生だという風に私は考えています」

世界中見渡しても前例のない、革命的な製品の発明をわずかな期間の中で実現させた謝代表。こ
うした、自身の活動の原動力となっているのが、モノづくり大国日本の復活と日本経済立て直しと
いう壮大な目標だ。

「日本が世界をリードできる分野は何かを考えたときに、唯一出てくるのがモノづくりだと私は思
います。金融、IT、貿易といった分野はまず難しいでしょう。かつてモノづくり大国と呼ばれて
いた頃は、SONY、Panasonic、本田技研といったようなリーディングカンパニーが次々
生まれていきましたが、今は製造業界全体が元気がなく熱意もありません。我々は地に落ちつつある
日本の製造業界を再び立ち上げさせるために、モノづくりベンチャーとしての自信を持ち、世界が
驚くような新たなモノを次々生み出し、ジャパンブランドを世界に知らしめ、製造業界の復活、そ
の先の日本立国を見据え、事業活動を行っています」

「健聴者も難聴者も皆当たり前にbonephone®をつける文化を作っていきたい」 産業分野への運用可能性など無限の可能性を秘める骨伝導技術

骨伝導技術を核としたモノづくりに並々ならぬ情熱を注ぐ謝代表に、改めて今後の展望を伺った。
「将来的に、街を歩けば健聴者皆が当たり前に当社のbonephone®をしている風景を作り

President Profile

謝 端明 (しゃ・はたあき)

中国江南大学電気工学部卒。早稲田大学経営システム工学科修了。
コニカ株式会社（現コニカミノルタ）の生産技術研究センターで4年弱勤務。
その後、アンダーセンコンサルティング（現アクセンチュア）などの経営コンサルティング
会社でSCMや生産改革のプロジェクトマネージャーを歴任。
2015年、BoCo株式会社設立。

Corporate Information

BoCo 株式会社



所在地

〈本 社〉〒104-0028 東京都中央区八重洲 2-11-7 一新ビル 6F
TEL 03-6225-2079 FAX 03-6225-2069
〈東京工場〉〒144-0044 東京都大田区本羽田 2-12-1 テクノ WING308 号室
TEL 03-6423-9015
〈boco STORE Ginza〉〒104-0061 東京都中央区銀座 6-12-13 大東銀座ビル 1F
TEL 03-5537-3308
〈boco STORE 羽田エアポートガーデン〉
〒144-0041 東京都大田区羽田空港 2-7-1 区画番号：210
TEL 03-5579-7103

設 立

2015年

資 本 金

15億6981万9750円（資本準備金含む）

従 業 員 数

21名

事業内容

純骨伝導技術および製品の研究開発、製造、販売
earsopen® (EO) 商品開発、製造、販売

経営理念

Your Happiness is Our Business

これは弊社の製品を通じてお客様に喜びと幸せを届けたい、そしてその結果としてビジネス
を営んでいきたいという想いです。経験豊かな起業家が集い、世界初、そして世界最高レ
ベルの「人々に幸せを与えられる製品」を創造し続けます。Made in Japanの「匠の精神」と
Marketing in Globalの「ベンチャーの行動力」で、骨伝導領域のエクセレントカンパニー
を目指します。

<https://boco.co.jp/>

「今よりもっと技術力、資金力をつけて世界にうって出ていきたい」という野望も。「当社は骨伝導
技術専門メーカーであってイヤホンメーカーではないということもうたっていて、実際に産業界野
への運用可能性など、無限の用途と可能性を秘めています。私の好きな言葉であり、行動指針となっ
ている「挑戦」を生徒続けて、当社独自の骨伝導技術を駆使して「Your Happiness
is Our Business」を実践しながら今後も事業活動を推し進めていきます」
未来への展望を瞳を輝かせて話す謝代表。現状に満足することなく、定めた大きな目標、そして
理念に向かって、今後もストイックに挑戦を続けていく。



聴覚が悪くなれば当たり前のように
bone phone®をつける文化づくりを目指す
BoCo

たいですし、難聴の方々に対しては、視力が悪くなればメ
ガネやコンタクトをつけるのと同じような感覚で、聴覚が
悪くなれば bone phone®を当たり前のようにつけ
る。そういった新たな文化を生み出していきたいと考えて
います」
これまでなかった文化を生み出すため、「骨から音を聴
くという感覚をまずは一人でも多くの人に体験してもら
いたい」と、銀座と羽田空港に試聴と販売を行う b o c
o S T O R E を運営している。このうち羽田店（羽田エ
アポート・ガーデン内）は、国土交通省お墨付きの、厳選
のジャパンブランドのみ出店が許されるジャパンプロム
ナード内での営業となっている。